基礎看護学　　１４単位　　４５０時間

Ⅰ．科目構築の考え方

基礎看護学は、すべての看護学の土台であり、看護実践能力を身につけるために重要な領域である。また、看護は実践の科学である。質の高い看護を提供していくためには基盤となる知識や態度に加え、原理原則に基づいた基礎技術を習得しておくことが必要不可欠である。看護に関する概念と看護が果たすべき役割・機能、そして看護を提供する場の拡大と多職種間連携・協働、専門職としての倫理について知識を深める内容として看護学概論を設定する。次に、科学的根拠と体系化された理論に基づく看護技術の基本と対象の健康レベルや状態に応じて看護を実践する能力、看護の発展をめざし探求する能力の基礎を養う内容として医療・療養環境を支える技術、生活を支える技術、看護研究、看護過程を設定する。また、専門基礎分野の治療論Ⅱや臨床薬理学などの知識を基に、他・多職種連携・協働しながら ICT やシミュレーションを用いた教育によって臨床判断を学ぶ内容として対象把握の技術、臨床看護総論演習を設定する。この科目では、多様な場であらゆる健康レベルにある看護の対象の状態を適切に判断し、その場で速やかに看護を実践できる高い看護実践能力の基礎となる臨床判断能力を養う。同時に、医療依存度の高い看護の対象が多様な場で生活を継続することを踏まえ、医療安全の内容を含む診療援助技術を設定する。基礎看護学実習では、病院において医療を受ける患者を受け持ち、看護問題の解決に向け看護過程を展開し、日常生活の援助を実践する。

Ⅱ．目的・目標

１．目的

多様な場であらゆる健康レベルにある看護の対象を支援するための臨床判断能力、看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、それらを安全に適用する方法の基礎、看護の展開方法等を学ぶ。

２．目標

1）看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について学び、人間を統合された存在として理解できる
2）保健・医療・福祉サービスの連携と看護の機能と役割について理解できる
3）看護学とその周辺学問に関する知識を深め、看護学を学ぶ意義・意味を考えることができる
4）看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる
5）倫理的な判断に基づく対象の安全・安楽をまもる基本的な知識・技術を習得できる
6）看護の専門領域である日常生活を支える技術、診療援助技術を理解し、基本的な技術を習得できる
7）臨床判断に必要なフィジカルアセスメントの技術を習得できる
8）対象の健康問題を解決する為に、理論的知識を用いて看護過程の展開技術を習得できる
9）健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を実践するために必要な臨床判断の基本的な知識・技術を習得できる
10）専門職として看護研究を行うことの重要性を理解し、科学的思考や態度を習得できる

Ⅲ．科目の構成

専門分野	科目名（時間）	単元（時間）
基礎看護学 14 単位 450 時間	看護学概論 （1 単位 30 時間）	看護の基本的な考え方（2）
		職業としての看護の理解（2）
		看護の対象である人間の理解（4）
		日本人の健康と生活（7）
		保健･医療･福祉の現状と看護の役割･機能の拡大（2）
		看護サービス提供の場と看護の実際（8）
		看護職の資格と養成制度とキャリア開発（3）
	対象把握の技術 （1 単位 30 時間）	看護技術の概念（2）
		コミュニケーションの技術（8）
		フィジカルアセスメント（20）
	医療・療養環境を支える技術（1 単位 30 時間）	療養環境を整える技術（16）
		安全を守る技術（14）
	生活を支える技術Ⅰ （1 単位 30 時間）	活動と休息の援助技術（10）
		清潔・衣生活の援助技術（20）
	生活を支える技術Ⅱ （1 単位 30 時間）	食事の援助技術（12）
		排泄の援助技術（18）
	診療援助技術 （1 単位 30 時間）	薬物療法を受ける患者の看護（18）
		検査・処置を受ける患者の看護（12）
	看護過程（1 単位 30 時間）	看護過程（30）
	臨床看護総論演習Ⅰ （2 単位 45 時間）	経過からみた健康障害（6）
		指導技術（8）
		主要症状を示す患者の看護（31）
	臨床看護総論演習Ⅱ （1 単位 30 時間）	看護技術の適用（2）
		対象の状態に応じた複数の看護技術の適用（2）
		対象の様態に応じた複数の看護技術の適用の実際（26）
	看護研究（1 単位 30 時間）	看護研究（30）
	援助技術実習 （1 単位 45 時間）	見学実習（7.5） 生活援助技術実習（37.5）
	看護過程実習 （2 単位 90 時間）	看護過程実習（90）

Ⅳ．授業の概要（シラバス）

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	看護学概論 1 単位（30 時間）	授業形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期
講師名 所　属	山本　真由美　嬉野医療センター附属看護学校　教育主事　実務経験：看護師 16 年						
授業概要	1.看護の対象である人間について哲学、生物学などの視点から理解を深める 2.看護理論家の主要概念とキー概念を概観し、看護の基本的な考え方の変遷について理解を深める 3.看護に対する基本的な考え方を 4 つの概念「人間」「環境」「健康」「看護」から考察する 4.保健・医療・福祉の状況を統計の観点から分析し、日本社会における健康ニーズの変遷を考察する 5.保健・医療・福祉の相互連携やチーム医療の必要性の観点から看護の場の多様性と看護が果たす役割と機能を理解する 6.専門職である看護職の責務と教育制度、キャリア開発について理解する						
科目目標	1.看護全般の概念や規定、定義について理解できる 2.保健・医療・福祉サービスの連携と看護の機能と役割について理解できる 3.看護学とその周辺学問に関する知識を深め、看護学を学ぶ意義・意味を考える						
テキスト	1.系統別看護講座　専門分野　基礎看護学［1］看護学概論　医学書院 2.看護覚え書　日本看護協会出版社 3.看護の基本となるもの　日本看護協会出版社 4.ザ・ロイ適応看護モデル　第 2 版　医学書院						
参考文献	1.国民衛生の動向						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						

筆記	○	レポート	○	口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・ 学習方法	担当講師
1	1.看護の基本的な考え方 1）社会と看護の変遷 2）看護の定義 (1)保健師助産師看護師法における規定・定義 (2)看護職能団体による看護の定義 (3)看護理論家にみる看護の定義 3）看護の役割と機能 4）世界および日本における看護の動向と展望	講義	山本　真由美
2	2.職業としての看護の理解 1）職業としての成りたちと確立 2）専門職としての自律と発展	講義	山本　真由美

	(1)社会の変遷と看護ニーズの変遷 (2)看護の対象の生活の場と看護提供の場の拡大 (3)看護の専門分化と看護機能の強化・拡大 (4)医療安全と看護師の責務 (5)看護の発展と看護研究		
3	3. 看護理論と看護 1) 看護理論の意義 2) 看護理論の概要とメタパラダイム ①フローレンス＝ナイチンゲール ②ヴァージニア＝ヘンダーソン	講義	山本　真由美
4	3. 看護理論と看護 3) 看護理論の概要とメタパラダイム ①アーネスティン＝ウイーデンバック ②ドロセア＝オレム ③シスター＝カリスタ＝ロイ ④ヒルデガード＝E＝ペプロウ ⑤アイダ＝ジーン＝オーランド ⑥ジョイス＝トラベルビー 演習課題「主要な看護理論家の看護概念とキー概念の理解」	講義 演習	山本　真由美
5	4) 看護理論の考え方と実践への適応 (1)セルフケア理論 (2)システム理論	講義	山本　真由美
6	4.看護の対象である人間の理解 1) 身体（からだ）と精神（こころ） (1)解剖学的理解 (2)生理学的理解（ホメオスタシス） (3)ストレス学説とコーピング理論 (4)心理学的理解（患者心理） (5)人間のニードに関する理論 (6)危機理論 2) 生涯成長・発達しつづける存在 (1)身体的発育 (2)心理・社会的側面における発達 3) 人間の「暮らし」 (1)生活者としての人間 (2)個人と家族・集団・地域	講義	山本　真由美

7	5. 日本人の健康と生活 1) 健康のとらえ方 (1)健康の概念・定義と保健 (2)障害の概念・定義と社会福祉 (3)健康の実現： ①ヘルスプロモーション②プライマリ・ヘルスケア 2) 日本人の健康観の変遷：主観的健康観 3) 国民の健康状態と生活背景 (1)統計と健康指標 (2)健康の社会的決定要因と健康格差 (3)平均寿命と健康寿命 (4)健康・生活と QOL	講義	山本　真由美
8	5.日本人の健康と生活 4) 国民のライフサイクルと健康・生活 (1)胎児期：結婚と出生 (2)小児期：こどもの成長発達と就学 (3)成人期：労働とストレス、家庭(子育て・介護) (4)老年期：老いと死、老老介護 (5)全期間：災害、パンデミック	講義	山本　真由美
9	6.保健・医療・福祉の現状と看護の役割・機能の拡大 1) 疾病構造の変化と予防的視点 2) 多様な価値観に基づく生活と看護活動の場の拡大 3) 超高齢化社会と介護保険制度に基づく看護活動 4) 健康の維持・増進に関する看護活動 5) 国際化における看護活動 6) 災害時における看護活動 7) 保健・医療・福祉の連携・協働チーム活動	講義	山本　真由美
10	7.看護サービス提供の場と看護の実際 1) 看護サービスの担い手と連携チーム (1)他職種・多職種との連携・協働 (2)他職種・多職種との情報共有 2) チーム医療 (1)チーム医療の前提と分類 (2)医療チームの条件と組織づくり (3)チーム医療における看護の役割と機能	講義	山本　真由美
11	7.看護サービス提供の場と看護の実際 3) 医療施設に定義されている医療提供施設とその特徴 (1)病院の特徴と看護サービス (2)診療所および病院の外来における看護	講義	山本　真由美

	(3)介護老人保健施設における看護（介護サービス） (4)助産所における看護 4) 地域における看護と継続看護 (1)地域における看護の対象と機能 (2)多様な場における看護活動と継続看護 ①公衆衛生看護 ②学校看護 ③産業看護 ④在宅看護		
12	7.看護サービス提供の場と看護の実際 5) 継続看護 (1)継続看護とは (2)地域医療連携 (3)継続看護の実際 (4)地域包括ケアシステムの構築	講義	山本　真由美
13	8.看護サービスの管理 1) 看護サービスと看護職者にかかわる法制度 2) 看護政策 3) 看護サービスと経済の仕組み (1)医療保険制度 (2)診療報酬 4) 適切な人員配置と看護サービスの評価	講義	山本　真由美
14	8.看護サービスの管理 5) 看護管理システム 6) 看護と組織 7) リーダーシップとフォロワーシップ 8) 人的資源の管理 (1)労働環境の整備 (2)看護管理と労働安全衛生 9) 医療の質の保証 (1)医療の安全性の確保	講義	山本　真由美
15	9.看護職の資格と養成にかかわる制度とキャリア開発 1) 看護師の資格と法的制度 2) 看護職の養成制度（看護基礎教育）と継続教育 3) 看護職の専門性とキャリア開発 4) キャリア開発と看護研究	講義	山本　真由美
	終講試験	試験 （評価）	単位認定者 山本　真由美

分野	専門分野 基礎看護学	科目名 単位（時間）	対象把握の技術 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期

講師名 所　属	大坪 香織　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 19 年 剱持 葉子　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 14 年
授業概要	1.看護技術の概念：看護技術の概念、看護技術の修得について理解できるようにする。 2.コミュニケーションの技術：講義を中心にロールプレイを取り入れながら、看護におけるコミュニケーション技術について理解できるようにする。 3.フィジカルアセスメント:看護の対象である人間の身体状況に対する判断を行うことの意義とバイタルサイン測定の方法、身体計測、呼吸、循環、腹部のアセスメントの方法について講義・演習を通して学ぶ。
科目目標	1.看護技術の概念について理解できる 2.看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる 3.看護の対象である人間の身体状況に対する判断を行うことの意義と方法を理解できる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学 2　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2.基礎・臨床看護技術　医学書院
参考文献	1.系統看護学講座　人体の構造と機能［1］解剖生理学　医学書院 2.フィジカルアセスメントガイドブック　医学書院 3.看護 形態機能学　日本看護協会出版会
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	○
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	１．看護技術の概念 1）看護技術の特徴 2）看護技術を適切に実践するための要素 3）看護技術の基本的原則	講義	大坪 香織
2	２．コミュニケーションの技術 1）コミュニケーションの意義と目的 看護・医療におけるコミュニケーション 自己理解と他者理解 2）コミュニケーションの要素とプロセス	講義・演習	大坪 香織
3	２．コミュニケーションの技術 3）関係構築のためのコミュニケーション 人間関係を保つコミュニケーション コミュニケーションに影響する因子	講義・演習	大坪 香織
4	２．コミュニケーションの技術	演習	大坪　香織

	4）効果的なコミュニケーションの実際 傾聴、情報収集、説明の技術 アサーティブネス プロセスレコード		
5	２．コミュニケーションの技術 5）コミュニケーションに障害のある人々への対応	講義・演習	大坪　香織
6	3.フィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの意義 2）看護におけるフィジカルアセスメントの意義 3）アセスメントの手段	講義	剱持 葉子
7	3.フィジカルアセスメント 4）身体計測とその介助	講義・演習	剱持 葉子
8	3.フィジカルアセスメント 5）バイタルサインの測定 （1）バイタルサインの意義	講義	剱持 葉子
9	3.フィジカルアセスメント 5）バイタルサインの測定 （2）バイタルサインの測定方法	講義・演習	剱持 葉子
10	3.フィジカルアセスメント 6）バイタルサイン測定（技術演習）	演習	剱持 葉子
11	3.フィジカルアセスメント 7）フィジカルアセスメント演習 （1）呼吸器系	演習	剱持 葉子
12	3.フィジカルアセスメント 7）フィジカルアセスメント演習 （2）循環器系	演習	剱持 葉子
13	3.フィジカルアセスメント 7）フィジカルアセスメント演習 （3）消化器系	演習	剱持 葉子
14	3.フィジカルアセスメント 7）フィジカルアセスメント演習 （4）運動器	演習	剱持 葉子
15	3.フィジカルアセスメント 7）フィジカルアセスメント演習 （5）感覚器系	演習	剱持 葉子
	終講試験、バイタルサイン測定技術試験	試験 （評価）	単位認定者 剱持 葉子

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	医療・療養環境を支える技術 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期

講師名 所　属	奥田 雄大　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：看護師 15 年
授業概要	看護学の土台となる基礎的知識であり、専門分野Ⅱに共通する学習内容の一つである。 DVD・動画教材を活用しながら看護の初学者である学生が理解できるように教授する。 各単元における授業概要は以下の通りである。 1.療養環境を整える技術： 患者を取り巻く環境を理解し、療養環境を整えるための基本的な知識と技術を教授する。 2.安全を守る技術： 生活環境に潜む危険を考えながら、医療・療養における患者の安全を守る基本的な知識・技術を教授する。
科目目標	1.患者を取り巻く環境を理解し、療養環境を整える技術を習得できる 2.医療・療養における患者の安全をまもる基本的な知識・技術を習得できる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ　医学書院 3.基礎・臨床看護技術　医学書院 4.系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践［2］　医療安全　医学書院
参考文献	適宜紹介する
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	○
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

1.療養環境を整える技術

回数	講義内容	教授・ 学習方法	担当講師
1	１．環境とは　内的（内部）環境と外的（外部）環境 ２．看護における環境とは ３．療養環境を整える意義と環境が人に与える影響 ４．屋内環境の調整 1）病室内気候（湿度・温度）　2）音　3）採光と照明 4）臭い　5）色彩	講義	奥田 雄大
2	５．病床の整備 1）病棟と病床　2）個室、多床室 3）病床の整備 4）療養環境のアセスメントと病床の整え	講義・演習	奥田 雄大
3	６．ベッド周囲の環境整備	演習	奥田 雄大
4	７．ベッドメーキング	講義・演習	奥田 雄大
5	７．ベッドメーキング（技術演習）	演習	奥田 雄大

6	８．臥床患者のリネン交換	講義・演習	
7・8	８．臥床患者のリネン交換（技術演習）	演習	奥田 雄大

２.安全を守る技術

回数	講義内容	教授・ 学習方法	担当講師
1	1．安全の目的 生活環境に潜む危険 医療・療養環境における安全	講義・演習	奥田 雄大
2	2．医療・療養環境における安全の実際	演習	奥田 雄大
3	3．感染防止の技術 感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義・演習	奥田 雄大
4	4．感染防止の技術 標準予防策（スタンダードプリコーション）	演習	奥田 雄大
5	5．感染経路別予防策 感染性廃棄物の取り扱い	講義・演習	奥田 雄大
6	6．洗浄・消毒・滅菌　消毒薬の用い方 7．無菌操作の技術	講義	奥田 雄大
7	7．無菌操作（技術演習） 1）滅菌手袋の装着方法 2）滅菌物の取り扱い 滅菌包・鑷子・滅菌ガーゼ・消毒綿球の取り扱い	演習	奥田 雄大
	終講試験、臥床患者のリネン交換技術試験	試験(評価)	単位認定者 奥田 雄大

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	生活を支える技術Ⅰ 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期

講師名 所　属	奥田 雄大　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 15 年 馬場 亜希子　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 17 年
授業概要	生活を支える技術Ⅰは、「活動と休息の援助技術」「清潔・衣生活の援助技術」の単元で構成されている。各単元の授業概要は、以下の通りである。 1.活動と休息の援助技術 人間工学における学習を踏まえて、人間にとって活動と休息の意義と体位・移動動作の援助技術、休息、睡眠への援助技術について教授する。 2.生活・衣生活の援助技術 人間にとって身体を清潔に保つ意義と基本的な清潔の援助技術について教授する。
科目目標	1.活動・休息の意義を理解し、基本的な技術を習得できる 2.清潔と衣生活の意義を理解し、基本的な技術を習得できる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2.根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
参考文献	1.系統看護学講座　人体の構造と機能［1］解剖生理学　医学書院 2.看護 形態機能学 日本看護協会出版会
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	○
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

1.活動と休息の援助技術

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.体位・活動の援助 1）姿勢を保つこと、活動することの意義 2）同一体位の有害性 3）体位の種類 4）活動・運動のアセスメント	講義	奥田 雄大
2	2.安楽な体位を保持するための援助技術	講義	奥田 雄大
3	3.体位・活動の援助 1）ボディメカニクスを用いた移動動作 （1）体位変換（技術演習）	演習	奥田 雄大
4	3.体位・活動の援助 1）ボディメカニクスを用いた移動動作 （2）床上移動 （3）車いす・ストレッチャー移動・移送（技術演習）	演習	奥田 雄大
5	4.休息・睡眠の援助	講義	奥田 雄大

	1）睡眠に影響を及ぼす因子 2）睡眠障害の種類 3）休息・睡眠への援助		
２.清潔・衣生活の援助技術			
回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.清潔と衣服を着ることの意義 2.清潔を保つための援助の必要性	講義	馬場 亜希子
2	3.身体の清潔を保つための援助の方法 1）衣服の種類と選択　2）入浴	講義	馬場 亜希子
3	3.身体の清潔を保つための援助の方法 3）足浴・手浴・爪きり・耳垢除去	講義	馬場 亜希子
4	3.身体の清潔を保つための援助の方法 4）臥床患者の寝衣交換（技術演習）	講義・演習	馬場 亜希子
5	3.身体の清潔を保つための援助の方法 5）臥床患者の全身清拭（技術演習）	講義・演習	馬場 亜希子
6	3.身体の清潔を保つための援助の方法 5）臥床患者の全身清拭（技術演習）	演習・演習	馬場 亜希子
7	3.身体の清潔を保つための援助の方法 6）頭髪の清潔の目的と方法	講義	馬場 亜希子
8	3.身体の清潔を保つための援助の方法 臥床患者の洗髪（技術演習）	演習・演習	馬場 亜希子
9	3.身体の清潔を保つための援助の方法 7）口腔ケア・義歯洗浄（技術演習）	講義・演習	馬場 亜希子
10	3.身体の清潔を保つための援助の方法 8）陰部洗浄（技術演習）	講義・演習	馬場 亜希子
	終講試験、洗髪技術試験、臥床患者の清拭技術試験	試験 （評価）	単位認定者 馬場 亜希子

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	生活を支える技術Ⅱ 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期

講師名 所　属	奥田 雄大　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：看護師 15 年 岩谷 望美　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：看護師 9 年
授業概要	生活を支える技術Ⅱは、「食事の援助技術」「排泄の援助技術」の単元で構成されている。 各単元の授業概要は、以下の通りである。 1. 食事の援助技術 形態機能学Ⅰ、栄養学で学んだ知識を想起し、人間にとっての食事の意義と基本的な食事の援助技術について教授する。 2. 排泄の援助技術 形態機能学Ⅰで学んだ知識を想起し、人間にとっての排泄の意義と基本的な排泄の援助技術について教授する。
科目目標	1. 食事の意義を理解し、基本的な技術を習得できる 2. 排泄の意義を理解し、基本的な技術を習得できる
テキスト	1. 統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2. 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
参考文献	1. 系統看護学講座　人体の構造と機能［1］解剖生理学　医学書院 2. 看護 形態機能学　第 4 版　日本看護協会出版会
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

1. 食事の援助技術

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1. 人間にとっての食事の意義 2. 食行動のアセスメントと看護師の役割 3. 経口摂取に対する援助	講義	奥田 雄大
2	4.　食事の援助技術 1）食事に適した姿勢 2）食事介助の方法	演習	奥田 雄大
3・4	5. 食事摂取が困難な患者の食事の工夫 嚥下障害がある対象への援助	演習	奥田 雄大
5	6. 非経口摂取に対する援助 1）経管栄養法 2）経静脈栄養法	講義・演習	奥田 雄大
6	7. 非経口摂取に対する援助	演習	奥田 雄大

	経管栄養法		
2.排泄の援助技術			
回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.人間にとっての排泄の意義 2.排泄のアセスメントと看護師の役割	講義	岩谷 望美
2	3.排泄の援助 1）排泄の援助を受ける対象の心理 2）自然排泄を促す援助 3）排泄援助の原則と留意点 ・トイレおよびポータブルトイレの援助 ・症上排泄の援助	講義	岩谷 望美
3	4.便器・尿器を用いた床上排泄の援助	演習	岩谷 望美
4	5. 自然排泄が困難な対象への援助 1）導尿の目的 2）導尿の種類（一時的・持続的） 3）膀胱留意カテーテルの管理の方法と留意点 4）摘便・浣腸の目的と援助の留意点	講義	岩谷 望美
5	6. 摘便	演習	岩谷 望美
6	7. 浣腸	演習	岩谷 望美
7・8	8. 一時的導尿	演習	岩谷 望美
9	9. 尿失禁・便失禁のある対象への援助	講義	岩谷 望美
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	診療援助技術 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期

講師名 所　属	大坪 香織　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 19 年 奥田 雄大　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 15 年
授業概要	診療援助技術は、「薬物療法を受ける患者の看護」「検査・処置を受ける患者の看護」の単元で構成されている。講義は、各単元の授業概要は、以下の通りである。 1.薬物療法を受ける患者の看護 薬物療法を受ける対象について理解できるよう教授する。与薬に関する基礎知識について、グループワークを取り入れながら授業を進める。 2.検査・処置を受ける患者の看護 検査・処置を受ける対象の不安や苦痛への援助ならびに生体管理のために必要な知識・技術を教授する。
科目目標	1.薬物療法を受ける対象を理解し、基本的な援助技術を習得できる 2.検査や検査に伴う処置を受ける対象を理解し、基本的な援助技術を習得できる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ　医学書院 2.根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院 3.系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院
参考文献	1.検査値ガイドブック　サイオ出版 2.看護六法　看護行政研究会 3.「新たな看護のあり方に関する検討会」中間まとめ　厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/09/s0906-4.htn
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

1.薬物療法を受ける患者の看護

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.薬物療法の目的 2.薬物療法における看護の役割と機能 3.薬物療法を受ける患者の心理 4.与薬に関する基礎知識	講義	大坪 香織
2	5.経口与薬・口腔内与薬時の注意点 6.直腸内与薬時の注意点 7.点眼・点入・点鼻時の注意点 8.経皮的与薬時の注意点	講義・演習	大坪 香織
3	9.注射時の援助と方法 1）注射の問題点	講義・演習	大坪 香織

	2）吸収速度と持続時間 3）注射器・注射針、注射薬の取り扱い		
4	9.注射時の援助と方法 3）注射器・注射針、注射薬の取り扱い アンプルカット（技術演習）	演習	大坪 香織
5	9.注射時の援助と方法 4）皮内注射、皮下注射、筋肉内注射	講義・演習	大坪 香織
6	9.注射時の援助と方法 5）筋肉内注射（技術演習）	演習	大坪 香織
7	9.注射時の援助と方法 6）静脈内注射、点滴静脈内注射	講義・演習	大坪 香織
8	9.注射時の援助と方法 6）点滴静脈内注射	演習	大坪 香織
9	9.注射時の援助と方法 7）輸血を受ける患者の看護	講義・演習	大坪 香織
2.検査・処置を受ける患者の看護			
回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1．検査・処置の目的 2．検査・処置を受ける患者の心理 3．検査・処置における看護師の役割	講義	奥田 雄大
2	4．創傷処置における基礎的知識 1）創の治癒過程 2）創傷処置の目的、方法、管理	講義・演習	奥田 雄大
3	5．包帯法 1）援助に必要な基礎知識 2）援助の実際	講義・演習	奥田 雄大
4	6．生体検査時の看護 各種検査における看護技術（X 線検査、内視鏡検査、超音波検査）	講義・演習	奥田 雄大
5	7．検体検査採取時の看護技術 1）血液・尿・便・喀痰採取時の留意点 2）腰椎穿刺、胸腔穿刺・骨髄穿刺時の介助 3）採血	講義・演習	奥田 雄大
6	7．検体検査採取時の看護技術 3）採血（技術演習）	演習	奥田 雄大
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 大坪 香織

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	看護過程 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期

講師名 所　属	山本 真由美　嬉野医療センター附属看護学校　教育主事　実務経験:看護師 16 年
授業概要	本科目は、対象の健康問題を解決するために、理論的知識を用いて看護過程の展開技術を教授する。看護過程の理解には、紙上事例について NANDA-Ⅰの看護診断を用いて教授する。
科目目標	対象の健康問題を解決する為に、理論的知識を用いて看護過程の展開技術を習得できる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2.ザ・ロイ適応看護モデル　第 2 版　医学書院 3.ＮＡＮＤＡ-Ⅰ 看護診断　定義と分類　医学書院
参考文献	1.検査値ガイドブック　サイオ出版 2.看護過程に沿った対症看護　学研 3.これなら使える看護診断　医学書院 4.看護診断ハンドブック　医学書院 5.関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録　かみくだき看護診断過程　日総研出版
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1. 看護過程とは 2. 問題解決思考とは	講義	山本 真由美
2・3	3. 看護過程と基礎的理論の関連 4. 実践方法を考えるためのツール ：ロイ適応看護モデルとは	講義	山本 真由美
4	5. 看護実践の伝達 看護記録の意義、種類の理解	講義	山本 真由美
5～7	6. ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開 1）情報収集 一次アセスメント（生理的適応様式）	講義	山本 真由美
8・9	6. ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開 1）情報収集 一次アセスメント （自己概念、役割機能、相互依存様式）	演習	山本 真由美
10・11	6. ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開 2）関連図	講義・演習	山本 真由美
12・13	6. ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開	講義・演習	山本 真由美

	3）二次アセスメント （1）刺激のアセスメント 4）看護診断		
14	6.ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開 5）看護目標設定と計画立案	講義	山本 真由美
15	6.ロイの看護理論を用いた看護過程の事例展開 6）評価とフィードバック 7．臨床判断とは	演習	山本 真由美
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 山本 真由美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	臨床看護総論演習Ⅰ 2単位（45時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 後期

講師名 所　属	馬場 亜希子　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師17年 大坪 香織　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師19年 池ヶ谷 知美　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師19年
授業概要	臨床看護総論演習Ⅰは、「経過からみた健康障害」「指導技術」「主要症状を示す患者の看護」の単元で構成されている。各単元の授業概要は以下の通りである。 1.経過からみた健康障害 健康障害をもつ対象を経過という視点からとらえ、それぞれの経過の特徴について事例を用いながら教授する。 2.指導技術 健康を支援する必要がある対象を理解し、健康教育をするための指導技術の実際について教授する。講義は、事例やグループワークなど用いて進める。 3.主要症状を示す患者の看護 健康障害をもつ対象の代表的な症状である痛み、発熱、呼吸困難、浮腫について、それぞれの概念と看護について教授する。また、症状を緩和するための看護技術について、DVDやシミュレーション教材を用いた演習を用いながら教授する。
科目目標	1.健康障害をもつ対象を経過という視点からとらえることができる 2.対象の健康を支援するために必要な教育、指導の基本について理解できる 3.健康障害をもつ対象の代表的な症状とその看護について理解できる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［4］臨床看護総論　医学書院 3.看護過程に沿った対症看護　学研 4. 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
参考文献	エビデンスに基づく　症状別看護ケア関連図　中央法規
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

1.経過からみた健康障害

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.急性期にある患者の特徴 1）急性期とは 2）急性期の3つのタイプ 3）急性期にある患者と家族の特徴	講義	馬場　亜希子
2	2.回復期にある患者の特徴 1）回復期とは 2）回復期にある患者と家族の特徴	講義	馬場　亜希子

	3.慢性期にある患者の特徴 1）慢性期とは 2）慢性期にある患者と家族の特徴 （1）疾患の受容プロセス （2）慢性期患者のたどる経過プロセス （病みの軌跡）		
3	4.終末期にある患者の特徴 1）終末期とは 2）死の受容プロセス 3）終末期にある患者と家族の特徴 （1）トータルペイン　（2）家族の特徴 （3）家族の危機とニーズ	講義	馬場　亜希子

2.指導技術

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.学習支援 1）看護における学習支援 2）学習支援に必要な理論 3）健康に生きることを支える学習支援 4）健康状態の変化に伴う学習支援 5）個人を対象とした学習支援 6）家族を対象とした学習支援 7）集団を対象とした学習支援	講義	大坪 香織
2	2.学習支援の実際 健康指導案の作成	講義・演習	大坪 香織
3	2.学習支援の実際 健康指導案の演習（技術演習）	演習	大坪 香織
4	2.学習支援の実際 健康指導案の演習・評価（技術演習）	演習	大坪 香織

3.主要症状を示す患者の看護

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.症状別看護について 1）症状に注目する理由	講義	池ヶ谷 知美
2	2.痛みのある患者の看護 1）痛みとは　2）痛みの種類 3）痛みのメカニズム　4）痛みに対する援助	講義	池ヶ谷 知美
3	2.痛みのある患者の看護 5）痛みのある患者の事例を用いた臨床判断 (1)事例のアセスメント (2)事例に必要な看護計画立案	講義・演習	池ヶ谷 知美
4	2.痛みのある患者の看護	演習	池ヶ谷 知美

	5）痛みのある患者の事例を用いた臨床判断 (3)事例に基づいた看護の実践・評価		
5	3.発熱のある患者の看護 1）発熱とは 2）発熱の要因とメカニズム 3）発熱を緩和する援助 （1）薬剤　（2）保温　（3）罨法	講義	池ヶ谷 知美
6	3.発熱のある患者の看護 3）発熱を緩和する援助：冷・温罨法（技術演習）	演習	池ヶ谷 知美
7	3.発熱のある患者の看護 4）発熱のある患者の事例を用いた臨床判断 (1)事例のアセスメント (2)事例に必要な看護計画立案	演習	池ヶ谷 知美
8	3.発熱のある患者の看護 4）発熱のある患者の事例を用いた臨床判断 (3)事例に基づいた看護の実践・評価	演習	池ヶ谷 知美
9	4.浮腫のある患者の看護 1）浮腫とは、脱水とは　2）浮腫の種類 3）浮腫の要因とメカニズム 4）浮腫の状態のアセスメントと緩和する援助	講義	池ヶ谷 知美
10 11	4.浮腫のある患者の看護 6）浮腫のある患者の事例を用いた臨床判断 (1)事例のアセスメント (2)事例に必要な看護計画立案 (3)事例に基づいた看護の実践・評価	演習	池ヶ谷 知美
12	5.呼吸困難のある患者の看護 1）呼吸困難とは 2）呼吸困難をきたす要因とメカニズム 3）呼吸困難を緩和する援助	講義	池ヶ谷 知美
13	5.呼吸困難のある患者の看護 3）呼吸困難を緩和する援助 （1）酸素ボンベの取り扱いと酸素マスク法 （2）口腔内・鼻腔内吸引（技術演習） （3）吸入薬・ネブライザー（技術演習）	演習	池ヶ谷 知美
14	5.呼吸困難のある患者の看護 4)呼吸困難のある患者の事例を用いた臨床判断 (1)事例のアセスメント (2)事例に必要な看護計画立案	演習	池ヶ谷 知美
15	5.呼吸困難のある患者の看護	演習	池ヶ谷 知美

	4)呼吸困難のある患者の事例を用いた臨床判断 (3)事例に基づいた看護の実践・評価		
23	終講試験	試験（評価）	単位認定者 池ヶ谷 知美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	臨床看護総論演習Ⅱ 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期

講師名 所　属	馬場　亜希子　嬉野医療センター附属看護学校　専任教員　実務経験:看護師 17 年
授業概要	事例に対し、フィジカルアセスメントを用いて対象の状態を把握することを学ぶ。講義は、学習者自身が学習の課題を見つけ、主体的に取り組むことができるように支援する。多職種と連携し、必要な看護を考え実践して評価する。
科目目標	1.健康障害をもつ対象の状態に応じて複数の看護技術を適用する基礎を習得することができる
テキスト	1.系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ　医学書院 2.根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
参考文献	適時紹介する
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.看護技術の適用とは 1）看護の実践　2）看護技術の適用とは	講義	馬場　亜希子
2	2.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用 1）看護技術を実施する際の原則 2）看護技術を適用する判断 3）倫理的配慮	講義	馬場　亜希子
3	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1）事例 A の状態のアセスメント （1）訪問（初回面接）のフィジカルアセスメント	講義・演習	馬場　亜希子
4	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1）事例 A の状態のアセスメント （2）優先度･優先順位のアセスメント	講義・演習	馬場　亜希子
5	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1）事例 A の状態のアセスメント （3）看護目標・根拠に基づく介入計画立案 呼吸を整える技術　循環動態を整える技術	講義・演習	馬場　亜希子
6	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1）事例 A の状態のアセスメント （4）看護実践と評価・考察	講義・演習	馬場　亜希子
7	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際	講義・演習	馬場　亜希子

	1）事例Aの状態のアセスメント （5）看護実践における学びの共有①		
8	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 1）事例Aの状態のアセスメント （5）看護実践における学びの共有②	講義・演習	馬場　亜希子
9	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 2）事例Bの状態のアセスメント （1）訪問（初回面接）のフィジカルアセスメント	講義・演習	馬場　亜希子
10	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 2）事例Bの状態のアセスメント （2）優先度･優先順位のアセスメント	講義・演習	馬場　亜希子
11	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 2）事例Bの状態のアセスメント （3）看護目標・根拠に基づく介入計画立案	講義・演習	馬場　亜希子
12	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 2）事例Bの状態のアセスメント （4）看護実践と評価・考察	講義・演習	馬場　亜希子
13	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 2）事例Bの状態のアセスメント （5）看護実践における学びの共有①	講義・演習	馬場　亜希子
14	3.対象の状態に応じた複数の看護技術の適用の実際 2）事例Bの状態のアセスメント （5）看護実践における学びの共有②	講義・演習	馬場　亜希子
15	終講試験	試験（評価）	単位認定者 馬場　亜希子

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	看護研究 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期

講師名 所　属	剱持 葉子　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 14 年 松浦 江美　長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　保健学専攻　教授
授業概要	この科目では、看護学における研究課程を学習し、看護学領域の研究論文を理解するための基礎的知識を習得する。また、看護における研究の意義を認識し，看護理論や看護実践との関係性について考え、看護専門職に必要な研究的思考に基づき、課題を解決する過程を体験する。最終成果として、研究計画書の完成・発表を目指す。講義の中では、精選された文献に触れることで、適切で最新の知識を取り入れることの重要性や、研究倫理のあり方を学ぶ。 受講前に 1 年時の科目「情報科学・演習」において履修している基礎的な統計処理や情報処理に関する復習をしておくこと、および研究課題を追求するために既習学習内容を駆使して積極的に学ぶ姿勢が求められる。
科目目標	1.専門職として看護研究を行うことの重要性を理解し、科学的思考を習得できる 2.既存の知識や理論を活用するプロセスを理解できる
テキスト	講義･演習に必要な資料等は講義時に配布する。 ※量的研究の演習では、1 年次履修科目「情報科学･演習」の統計に関する資料を参考にすることで、量的研究の理解が深まる。
参考文献	1.新版　看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 2.初学者のための質的研究 26 の教え 医学書院 3.看護研究 Step by Step 医学書院 4.看護研究(第 1 版) 医学書院 5.看護研究　原理と方法 医学書院 6.質的研究と記述の厚み―M‐GTA・事例・エスノグラフィー（グラウンデッド・セオリー・アプローチ）弘文堂 7.医学中央雑誌　サーチエンジン
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.看護研究の意義 2.問題解決と研究の相違 3.看護実践のなかから生まれる研究疑問	講義	剱持 葉子
2	4.研究の設計と方法の選択 1）看護における研究デザインの多様性 2）研究の問いと研究デザイン	講義	剱持 葉子
3	5.看護研究のプロセス 6.リサーチクエスチョンの明確化	講義	剱持 葉子

4	7.看護研究における倫理的な問題とその対応 1）研究における倫理的配慮の原則 2）依頼書と同意書に関する考え方･方法 3）特別な配慮が必要な場合の対応	講義	剱持 葉子
5	8.文献検索と文献検討 1）文献検索と文献検討の必要性 2）一次文献と二次文献	講義	松浦　江美
6	8.文献検索と文献検討 3）文献検索の実際(演習)	演習	松浦　江美
7	9.看護研究のクリティーク 1）研究のクリティークの目的 2）研究論文に対するクリティーク (量的研究、質的研究)(演習)	講義・演習	松浦　江美
8	10.研究計画書 1）研究計画書の意義 2）研究計画書の作成 研究テーマ、研究しようとする問題の背景、研究動機、研究目的、研究の意義、研究方法	講義	松浦　江美
9	11.量的データ収集方法と分析 1）分析のためのデータ処理と入力 2）統計学的分析 (1) 記述統計量 (2) 母集団と標本 (3) 推測統計量	講義	松浦　江美
10	11.量的データ収集方法と分析 3）質問紙によるデータ収集 4）質問紙の作成 (質問紙を開発する場合、開発しない場合の手続き)	講義	松浦　江美
11	12.質的データ収集方法と分析 1）質的研究におけるデータ収集 (1) 面接(インタビュー) (2) 参加観察法	講義	松浦　江美
12	13.取り組んでいる研究のグループ検討 統計について、分析方法等	講義	松浦　江美
13	14.研究論文のまとめ方 (1) 論文の全体構成 (2) 結果、考察のまとめかた	講義	剱持 葉子
14・15	15.研究結果の公表① (1) プレゼンテーション	演習	松浦　江美 剱持 葉子

	（2）研究成果発表の場と方法 （3）論評		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 剱持 葉子